單顎類のヤスデの産卵習性の報告はまだないようである。三好氏は伊豫の皿ケ嶺で夏季にヒラタヤスデが抱卵しているのを4回も觀察したが1950年の7月抱卵中の4個體を見つけそれらが♂であるのを確かめた。抱卵狀態を圖示してある。

2 村上好央――ゲジゲジの發育について（豫報）――同上57-60, 6圖

前號紹介1949年度第2回12に同じもの。圖が新に加わつている。

サ ソ リ ノ ー ト

◇新村太朗氏の御好意で國立科學博物館動物學課に預つてあるボルネオ産というサソリ及びサソリモドキの標品を調べる機會に恵まれた。サソリは乾品で生時の姿態に近く固定されてあり見榮がする。私にはお馴染のチャグロサソリ Heterometrus longimanus longimanus (Herbst) で成雄とまだ成長の餘地のある雌とが立派な木箱に收まつていた（1950年11月5日)。

◇名古屋に於ける日本動物學會大會第2日（1950年10月8日）に宮崎惇氏（岐阜大學學藝學部生物研究室）にお目にかかりビルマ産というサソリの標品（乾品）を頂いた。御芳志を深く謝する。ビルマ産のサソリを檢するのはこれが2度目だと思う。チヤグロサソリの♂で櫛狀器齒數は左右共15本あつた。どうして氏がこの標品を入手なさつたかその來由が中々面白いから次に御披露する。

◇1942年の暮頃かに宮崎氏が送つた慰問袋はビルマに出征中の陸軍伍長山田某氏の手にはいつた。これを機縁に慰問文を送るうち，當時師範生だつた宮崎氏が生物を非常に愛好し海外の動物を欲していることを知つたのか山田伍長はサソリを紙に包み手紙と共に封筒に入れて送つて來た。軍醫に痲酔藥を注射して貰つて殺したと書いてあつたが採集地は敎えて貰えなかつた。それで宮崎氏は手許の參考書でサソリのことを調べ「軍隊用サソリ解説」とでも名づけるようなものを1枚の紙に書いた。圖解と共に形態・習性・産地等を記し御禮の意味で送つた。これが兵隊の間で相當讀まれ參考になり悦ばれたと後程手紙を貰つた。當時16歳の子供のこととて送つて頂いたサソリもヤエヤマサソリとした有様であつたが異境にあつてはこんな子供の書いたものでも喜ばれたものかも知れない。山田伍長の御消息は其の後文通も杜絶して判らなくなつた。

◇濱松の小川一男氏からサソリの標品2瓶を頂いた(1951年3月)。それらはキョクトウサソリであるが產地や採集年月日，採集者名等は今では判らなくなつている。次に備忘として數值を揭げて置く。

	性	頭 胴 長	櫛狀器齒數	
1	♂	6+12.5=18.5粍	右20枚,	左20枚
2	♀	4+9=13	右19,	左18
3	♂	5.5+13.5=19	右22,	左23
4	♀	5+16.5=21.5	右18,	左12以上(一部折損)

體肥大し節間膜が延びている場合にはどうしても前腹部長は大きい値になる。No. 4 はその1例である。(高島春雄)

カニムシノート

◇京都大學農學部佐久間梅雄氏が1951年4月中旬京都市左京區の家屋內で採り種名を知らせて欲しいと送つて來られたのは分布汎世界的といわれるイエカニムシ Chelifer cancroides (Linné) であつた。これは日本でも普通のカニムシ故「日本動物圖鑑」などに圖示されていぬのが不思議な位である。イエカニムシという名は私は森川國康氏の「四國產蜘蛛類・多足類目錄」(1945)で覺えたのであるから森川氏が其の時命名されたものであろう。最近「採集と飼育」第13卷第4號 (1951) に宮崎惇氏がこの種類をナミカニムシという名で書いているので同氏に伺つたら標本査定者岸田久吉氏がそういう名で知らせて下さつたとのこと故，岸田氏が新に選ばれたものであることが判つた。

◇1949年7月高知女子大學石川重治郎氏から種名を知らせて欲しいとお送り下さつたカニムシ2種は Roncus (Roncus) japonicus (Ellingsen) と Tyrannochthonius japonicus (Ellingsen) に同定した。標品は高知高校2年生川澤哲夫氏が高知縣高岡郡上ノ加江町で採集したものである。これを調べた時判つたことだが「改訂增補日本動物圖鑑」(1947)にアギトツチカニムシ（別名ヨツメカニムシ，ツチカニムシ）Gnathochthonius japonicus Ellingsen とあるのは上記 T. japonicus と同種であるのだが Gnathochthonius なる屬名は右圖鑑で岸田久吉氏がお使いになつた新しい名であつた。T. japonicus に對しては岸田氏は1915年にはイボカニムシ，1927年にはヨツメカニムシ（別名アギトカニムシ，ツチカニムシ）としておられる。どれがよいか迷うがアギトツチカニムシ（上記圖鑑で新しく選ばれた名）に敬意を表することにしよう。

◇東大竹脇潔敎授が1950年5月23日東大理學部鼠小屋の中で偶然採集されたカニムシを1